

川魚川エビ多数確認

友内川

ウナギ「石倉」モニタリング調査

延岡市の東海漁協

延岡市の東海漁業協同組合（内田裕之組合長）は31日、友内川に架かる友内橋（同市無鹿町）下流の川底に昨夏設置した、ウナギなど水生生物のすみかとなる「石倉」（石を積み上げて空間を確保した構造物）でモニタリング調査を行った。



友内川で行われた石倉のモニタリング調査（31日、延岡市無鹿町）



122匹確認したシマイサキ

「水産多面的機能発揮事業」を進め生態系の保全・改善を図っており、その一環。

県内では県内水面漁協連合会に所属する東海、北川（以上延岡市）、葛島（日向市）の各漁協が同事業に理解を示し、昨年5

月末から平成28年3月末まで、3漁協が関係する河川の一部で禁漁区を設定。同8・9月には採捕禁止区域に石倉を設置した。この日は同管理委員会、東海漁協、市や県の担当職員ら約10人が参加し、モニタリングが可能な簡易式の1基に仕掛けの網を引き上げて調査した。その結果、ウナギは見られなかったものの、シマイサキ122匹を最も、ウロハゼ、コマウエタイなどの川魚や川エビ、川カニ、貝類を多数確認した。

モニタリング調査は昨年9月、同11月に続くもので、今回は放流期間が長かったことから、昨年より量も魚種も多かったという。いずれも種類別の数量を確認後に川へ返した。

同漁協でのモニタリング調査は今回で終了。昨年9月に実施した初回の調査ではウナギ2匹も確認しており、同漁協の内田組合長は「友内川では河川浄化のおかげでコママモ（水草）が増え、放流したシジミの稚貝も順調に育っている。3回の

調査で生息状況が良好なことが分かった。資源が少しでも昔のようによみがえるよう環境保全に努めたい」と話した。